

教育目標		心身豊かに共に育ち合う子どもを育てる						
重点目標		子どもが心豊かに共に育ち合う保育を推進する。 地域に開かれた幼稚園づくりを推進する。						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	きめ細やかで特色のある幼児教育の提供	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢の関わりを大切に保育を工夫し、展開する。 幼児理解と教師の保育力、連携力向上をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢児が自然と関わって遊ぶように1階の保育室を活用し、自由によって保育室内を子供自らが遊び、自由に行き来する環境を整える。 全職員で遊びに必要な用具や素材を出し合い教師が連携し合って保育に取り組みよう努める。 共同研究園での園内研究会を通して学んだことを自園の保育にも取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢児との関わりを深めることができるように定期的な短期指導計画、園庭・室内での遊びの企画をもち、共通理解を図る。 保護者アンケートで「幼稚園は子供の興味・関心・発達に合った保育を行うことに努めている」の項目において、肯定的な評価が90%以上になる。 園内研究会を年2回実施する。また、共同研究園での園内研究会に参加し、保育の質の向上と教師の資質向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 遊戯室を室内遊びの場として活用したことで、異年齢児が自然と交わり遊びを作り出す姿が増えた。子供の興味や関心を理解し捉えることで、子供が自分で考え決定して行動することがわかり、環境がとて重要なことを学んだ。 環境の再構成に関しては、職員の共通理解不足があった。日々の子供の姿から職員間での連携を引き続き深めていく必要がある。 保護者アンケートの項目では、肯定的な評価が90%を超え、目標を達成することができた。 11月に市内研究会を行い、職員一人一人が保育実践の中で多くのことを学び、子供の主体性を尊重する保育について学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 短期指導計画の話し合いの中で環境について話し合う時間をもち、子供の姿からの環境の再構成について積極的に意見を出し合い、全職員で意識をもち役割分担を決め主体的に進めていけるようにする。 主体性の保育を念頭に置き、子供の興味・関心だけでなく、発達に即したねらいをもち、どう支えていけるのかを細やかに考え実践する。 研究会を通して学んだことを実践に活かし、資質向上のため引き続き積極的に研修会に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究発表会では少人数ならではの異年齢のかかわりを大切にしている様子がよく伝わってきてありおか分園のよさが出ている。 遊戯室を室内の遊び場にするなど工夫努力されていることは伝わってくる。その場が教員にとっても学び合いの場になっていると感じた。 互いの共通理解の大切さ、幼児理解の共有を確実にし、チーム保育として確立してほしい。
	心豊かに子どもが育ち合う保育	<ul style="list-style-type: none"> 子供が自分で考え決定して行動するための環境の構成を工夫し、主体性を尊重し支えていく保育を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 南ブロックの研究に基づき、自分で考え決定して行動する子供を育てるための環境の構成を工夫し、保育を実践する。 子供が心を動かす、試したり工夫したり、探求したりする環境を全職員で考え合い、共通理解を図った上で、協力して環境を整え、保育を実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 2週に1回、短期指導計画の検討を行う際に、研究の評価指標を基に環境の構成と幼児の育ちの検証を行う。 月に1回以上、好きな遊びの環境の見直しを全職員で行う。 保護者アンケートで「子供は、友達や教師と繰り返したり試行錯誤したり、発見・探求したりするなどして遊びを楽しんでいる」という項目において、肯定的な評価が90%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 南ブロックで作成した評価指標別環境の構成のポイント表を用い、幼児の育ちとその育ちにつながった環境の構成について、2週に1回検証することができた。 月に1回以上、好きな遊びの環境の見直しを全職員で行うことになった。 保護者アンケートでは、肯定的な評価を90%以上得られた。 11月の伊丹市教育委員会指定研究発表会で保育公開を行い、異年齢の子供が関わり合いながら育つことの大切さや子供の実態から育育方向性を見据えた環境の構成の大切さを学んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究を通して学んだことを活かしながら、本園ならではの異年齢保育を継続していける方法を見出し、実践していく。 環境の構成について担任が考えたことを随時、全職員で共有できるような話をしたり、ホワイトボードを活用したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢での保育の実践により子供が互いに心を通わせながら関わり合う様子が伺え、どの子も育つ環境があると感じた。 互いの気持ちのくみとりや教育方針等職員が同じ方向を向いて取り組んでほしい。
	特別支援教育の推進・充実	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の個性を大事にし自分らしく表現出来るよう、個々の発達段階や課題に応じた適切な指導・援助を行う。 子供同士が互いに認め合い、共に育ち合う保育を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に、子供の様子や環境について話し合い、全職員で情報を共有する。 担任と特別支援教育担当者が子供の実態を把握し個別指導計画を立案し、全職員での共通理解を図る。 また、保護者に開示し、短期目標を達成するための支援内容を考え、園と家庭と連携して取り組む。 全園児に対し発達の課題に応じて関係機関や小学校と連携し、集団参加や社会参加において、子供や保護者にとって効果的な援助や支援方法を考える。 子供の発達や課題に応じて、クラス活動やにじむ広場に意欲をもって参加できるように個別の支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供の様子や課題などを話題に取り上げ、全職員で子供の姿や支援方法について共通理解する場を月に1回以上もつ。 また、特別支援教育担当者間で子供の実態や支援について共通理解する場を、月に1回以上もつ。 子供や保護者の支援に活かすために、個別指導計画を作成し、保護者に開示する場を年2回以上もつ。 わかばこども園でのにじむ広場に、最低1回は参加出来るように促す。 保護者アンケート「幼稚園は、一人一人を大切に幼児理解し、個々の発達や個性に応じた保育を行い、共に育ち合えるようにしている。」の項目において肯定的な評価が80%以上になる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子供の様子や課題などを話題に取り上げ、全職員で子供の姿や支援方法について共通理解する場を月に1回以上もつことができた。 また、特別支援教育担当者間で子供の実態や支援について共通理解する場を、月に1回以上もつことができた。 子供の発達に合わせた個別指導計画を作成し、半年に1回保護者に開示してきたことで、家庭と共通理解して支援することができた。 わかばこども園のにじむ広場に、90%の親子が1回以上参加することができた。 保護者アンケート「幼稚園は、一人一人を大切に幼児理解し、個々の発達や個性に応じた保育を行い、共に育ち合えるようにしている。」の項目で肯定的な評価が100%となり、目標を達成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続した支援ができるように、子供の姿や課題・支援方法について、職員間で情報共有をすることで、月に1回程度、全職員で共通理解をする場をもつ。 クラス担任と特別支援教育担当者が、子供の実態から支援の方法について話し合いをする場を日々もつようにする。 年に2回保護者に個別指導計画を開示する場をもち保育の実践につなげていくために、個別指導計画の内容を保護者と共通理解し、連携を大切にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員が子供の様子等を共有する機会を定期的にもつていくことがよい。 引き続き取り組んでほしい。
豊かな心・思いやりの心の育成	豊かな心・思いやりの心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 他者を思いやる気持ちや感謝の気持ち、頼りにされる喜びの気持ちなどが育まれるような異年齢での遊びを保育に意識的に取り入れる。 花や野菜、生き物の世話を通して命の大切さを知り、動植物に愛情と親しみをもって関わられるようにする。 一人一人のよさを認め、受け止められるような保育の機会を作り、子供たちの人権意識が育まれるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 園生活で子供が様々なことに関わる中で、友達に頼ったり、友達に優しく関わったりする。 一人一人のよさに気付いたり違いを受け止めたり他者を意識したりするなど人権意識を育むことにつながる保育の機会（話し合いや絵本など）を学期に1回以上もつ。 命を大切に育むということが実感できるように、年間を通して動植物の世話や観察をする。 保護者アンケートで「子供は自分を大切に、友達や周りの人を思いやる気持ちで育っている」「子供は生き物や植物などの自然に興味や関心をもったり、命の大切さを感じたりしている」の項目において肯定的な評価が90%以上になる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 友達とトラブルが起きた際には個々の気持ち等に気が付くよう丁寧な話し合いがその都度できた。 また、今年度は異年齢での活動が中心であったこともあり、年長児が率先して話し合いを進める等子供自身が気が付き話し合う姿も見られることがよくあった。 どのクラスでも生き物の世話や関わる姿を通して、命を大切に育む姿勢が育ってきている。 「子供は自分を大切に、友達や周りの人を思いやる気持ちで育っている」「子供は生き物や植物などの自然に興味や関心をもったり、命の大切さを感じたりしている」の項目において肯定的な評価がどちらも95%を超える結果であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供は自分の気持ちも他者の気持ちも大切にできる子供に育っているとは思いますが、園児数が少ないため言葉で伝えなくても気持ちを汲み取ってたり、少くもこのことは我慢して通じたりしている姿も見られる。今後、大きな社会に出て行くことも見据えて、どんな状況でも、自分の気持ちを大切に、感じたことを表現できる子供に育つことを大切に保育をしていく必要がある。 子供の人権意識については高まってきていることが評価からも伺える。一方で今年度実施した、保護者の「子どもの権利条約」についての人権研修において、「知らなかった」「我が子の人権について考える機会になかった」「子供の人権について改めて大切にしたい」「ほげんだより」を配信して家庭につなげていき、健康意識と生活習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 園児数が少ないゆえに言葉で伝えなくても気持ちが伝わりやすくなる環境は他では得られない。その上で自分の気持ちを表現できることを目指すしかけを教員が大切に感じていることは重要である。 成長の中でトラブルの解決方法や、気持ちの整理の仕方、感情の伝え方などの学びは大切でそれが学べるのが幼稚園の役割の一つである。園児数の少ない園だからこそ、教師が手をかける面と子供同士に任せる面を使い分け、力をつけていくとよい。 	
	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立をめざし、自分の体を大切にすることを育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣や健康について興味関心をもち、意識の向上するように発達と子供の状態に応じた内容を「保健の話」や「けんこうカレンダー」を実施する。 保護者啓発として「保健の話」や「ほげんだより」を配信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 園と家庭が連携するために月1回「保健の話」をし、その内容を家庭でも継続して取り組むために「けんこうカレンダー」を実施する。 保護者アンケート「子供は、基本的な生活習慣や健康な生活について意識をもち、自ら取り組もうとする姿が見られる」の項目で肯定的な評価が80%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 月1回発達に応じた「ほげんの話」をし、その話し合いが継続して取り組むために「けんこうカレンダー」を実施し、園と家庭が連携することができた。 しかし、早寝早起きやテレビ等の視聴時間などには課題が残る。 保護者啓発として「保健の話」や「ほげんだより」を月1回配信することができた。 保護者アンケート「子供は、基本的な生活習慣や健康な生活について意識をもち、自ら取り組もうとする姿が見られる。」の項目では肯定的な評価が80%以上であったが、ややあてはまる回答が半数を占めていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立の課題があるため、今後も健康について興味関心をもてるように「保健の話」や「けんこうカレンダー」を実施し、園と保護者が連携し取り組めるようにしていく。 子供の発達に応じた「ほげんの話」の内容や健康意識を高めるための「ほげんだより」を配信して家庭につなげていき、健康意識と生活習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康カレンダーの取り組みは就学前でとどまらず、別の形でも1年生とつながるように考えていけるとよいと感じる。 この項目は成長、生活の基本です。職員が目指す姿を共通理解し、状況の把握をした上でぜひともAになるよう取り組んでほしい。
安全・安心な園づくり	安全・安心な園づくり	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちが安心して通える安全な園となるように環境を整備したり園児や保護者へ個別の声をかけたりする。 安全点検及び日常のヒヤリハットを共有し、即、改善に努める。 様々な事象を想定した訓練、振り返り、改善を行い、個々としての力、集団としての力をつける。 職員の護身に関する研修を行い、いざという時に対応できる力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートで「幼稚園は子供が生活しやすい環境を整えている」の項目の肯定的な回答の割合が90%以上になる。 危機や危険がないかを確認、共有するために安全点検を月1回行う。日常のヒヤリハットはその都度職員間で共有し、軽微な変化にも気付くように意識をもち、対策をしっかりとらえて実施する。 様々な訓練で状況に応じた避難方法を学ぶ機会を年間5回以上もつ。職員の研修も年1回以上を行い、技術を習得する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートで「幼稚園は子供が生活しやすい環境を整えている」の項目の肯定的な回答の割合が100%になった。 安全点検の日を決めて安全点検表を配布し、職員が分担して取り組むことで、月1回は意識して点検することができた。 安全点検で異常が見られた箇所や子供にとつて安全ではない場所については施設課等とも連携し安全・安全な場所となるよう修繕・改善を行ってもらえるように要望していた。園でできる工夫も十分ではない場所もあるため安全で安心して過ごせる園となるように連携を図る。 様々な訓練を行った。職員を対象とした防犯訓練では警察の方に来ていただき、指導を受けた。 ヒヤリハットが起きたときの改善策の立て方や共有の仕方について課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供にとって安心・安全な園となるよう今後も教育委員会と連携を図りながら、安全管理に努める。 安全管理、衛生管理に意識をもち、気付いたことはすぐに対応するなど自分たちでできることを考え取り組んでいく。 ヒヤリハットの共有を今後も続けていけるように、軽微な変化にも気付くように意識をもつ。 次年度も関係機関と連携・調整を図り、2次避難を想定した避難訓練など予測される状況を考えて、取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートで100%の肯定的な回答を得られたことは保護者の信頼の表れである。 この項目がAでこそ、職員・幼児が安全・安心に過ごせると思う。子供にとつてよりよい環境づくりができるよう努力してほしい。 	
	開かれ信頼される幼稚園	幼稚園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育方針や保育について、保護者に理解してもらえよう発信する。 園での子供の様子を、全職員で取り組み、Google Classroom、HP、動画配信などで伝え、園の教育活動への理解を促進する。 iucuoが導入された際には、職員で使い方を共有し、各自が自分に必要な活用を意識する。 有岡小学校との交流、民生指導委員との交流を通して、園児の様子や保育内容について近隣地域への情報発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育内容や子供の様子、遊びの中での子供の姿などを年に1回以上懇談会の場で伝え、理解を促す。ありこたよりやクラスだよりなどを学期に1回以上発信し、園の教育内容を具体的な保育やアンケートの結果をふまえて保護者に伝える。 Google ClassroomやHP、動画配信などで子供の様子を月4回以上発信する。 iucuoの使い方を自分なりに模索したり互いに教え合ったりしながら自分なりにわかるようにする姿勢で取り組む。 有岡小学校の職員や民生委員との関わりの中で子供にとってよりよい関わりがうまれるように色々な視点で年に3回以上会を計画する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> HPはiucuoの導入に伴い、配信の数を減らした。全職員が分担して作成することで戸惑いや時間がかることもあったが各月2回以上は配信することが出来た。 iucuoで動画配信が導入され、タブレットを使用し、子供の様子を保護者に伝えた。配信回数は課題が残る。 iucuoを活用し、子供の様子を配信するにあたり、見やすいレイアウトや文字の大きさなどを見直し、工夫した。 年3回以上有岡小学校の職員と関わりをもち、幼児教育を知ってもらう機会になった。子供同士の自然な関わりを一定期間継続してつづけていく。 近隣の就学前施設とも関わり、5歳児が交流を持つことで遊びや生活面で刺激を受けていた。 	<ul style="list-style-type: none"> HPは引き続き全職員で作成しながら、園の教育のアピールとなるように継続する。 iucuoの動画配信を全職員で関わってタブレットを使って作成する方法を考えていく。 iucuoを使って子供の様子を見やすくわかりやすい形式で、保護者に配信することを継続していく。 子供や保護者一人一人丁寧に関わり、変化する教育内容やありおか分園ならではの教育に理解が得られるよう様々な発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 忙しい中での情報発信は大変だと思いますが、継続してほしい。 小学校との連携がもてよかったので、交流だけにとどまらず、教育課程でのつながりや教員同士のつながりを今後も大切にしていきたい。
子育て支援事業	子育て支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 通常保育後、長期休業中の園庭開放を行う。保護者ニーズも把握しながら、園の遊具や用具なども活用できるようなルール作りをする。 子育て支援の場として園庭開放や預かり保育が保護者にとって気軽に活用できる場となるように環境を整える。 みんなのひろばや園庭開放等の機会を活用し、地域の方に園のことをよく知り、親しみを感じてもらえるように働きかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者のニーズを把握しながら、園庭開放に非当日は隣園しなくても利用できることを保護者に伝える。昨年よりも利用人数が増加している。 園児だけでなく地域の児童や就学前の子供たちも遊びに来られることをアピールする。 PTA活動を通して、保護者同士のつながりがもてるようにPTA役員会でボランティア活動などを企画する機会を学期に1回以上もつ。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援の場として預かり保育を保護者に気軽に活用してもらえるよう再度周知したことで、活用人数が増えた。あずかり保育でも色々な経験をすることが出来た。 未就園児がみんなの広場を通じた集団生活への第一歩として気軽に参加してもらった。 園庭開放は特に長期休暇の日の着が響き利用者が多かった。また、遊戯室の工事とも重なり利用者がほとんどなかった。 PTAのボランティア活動として、誕生会の出し物や園芸などに取り組んだ。一方で参加する保護者が毎回同じになり、新規参加者の広がりが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援の場として、預かり保育で子供が安心して過ごせる環境作りを目指し、自由遊びで一人一人によりよい、ゆとりある活動を取り入れる。 預かり保育中の様子を保護者に伝え、家庭と連携する。 園庭開放への誘いかけを年度当初の配布だけではなく、集まりがあった際には声をかけ、活用につながるよう啓発していく。 PTA活動でたくさんの方にボランティアに参加してもらえるように役員を中心に発信し、たくさんの方が気軽に参加してみようと思えるような活動になるように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> まだできる工夫があると思う。職員で協力あって取り組みを継続してほしい。 外部の人がどれだけやりがいをもちかかわっていかないと重要であり、発信を継続していく必要性を感じる。 	

学校関係者評価総括
 日頃より子供たちの育成に努力されている。PDCAサイクルが有効に回っているものと思われまます。保護者の評価においても良い方向に向いていると感じる。
 職員の共通理解や協力体制が大切で子供たちを守り育てることにつながる。すべきことがはっきりしていることは素晴らしいと思います。チーム保育で子供たちのために頑張られることを期待する。

次年度に向けた重点的な改善点
 少人数なので心豊かに育つ面があると思うが、コミュニケーション能力は大切なので育んでほしい。保護者の人権意識も重要である。生きとし生けるものすべてが自分と関わっているのだということが大事である。その恩恵で自分が生きているということが大切である。生活習慣は重要である。家庭に問題があることも多いが、園からの啓発が大切である。